

オプトアウト資料

臨床研究に関する公開情報

京都市立病院リハビリテーション科では、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画書・研究方法についての情報利用について知りたい場合、患者さん自身のカルテ情報を利用されることを拒否される場合など、お問い合わせがありましたら、以下の問い合わせ先にご連絡ください。なお、この研究に参加している他の患者さんの個人情報等はお答え出来ない内容もありますのでご了承ください。

1. 研究課題名

Trousseau 症候群における早期 ADL 獲得の重要性

2. 研究責任者

リハビリテーション科部長 多田 弘史

3. 研究担当者

リハビリテーション科 松原 彩香

4. 研究について

背景：近年、悪性腫瘍の治療の進歩によりがん症例の生存期間が向上しており、Trousseau 症候群に対してもリハビリテーションの必要性が高まっている。しかし、Trousseau 症候群に対するリハビリテーションの対象、目標、適切なプログラムなどは明らかにされていない。

目的： Trousseau 症候群に対するリハビリテーションの目標の一指標を明らかにすること

対象： 2015 年 1 月 ～ 2019 年 12 月 に当院でリハビリテーションを実施した Trousseau 症候群患者 32 例

研究期間： 2019 年 1 月 ～ 2020 年 4 月

研究結果： Trousseau 症候群発症後に悪性腫瘍の治療を再開した症例は、日常生活動作の自立度が高かった。治療再開までは中央値 11 日であった。Trousseau

症候群発症後は、日常生活動作に着眼したリハビリテーションを行い、食事、排泄、更衣、歩行などの身の回りの動作を早期に介助なく行えるようにすることが重要である。

取り扱う情報： 診療記録、リハビリテーション科記録

個人情報取り扱い： 患者データは研究担当者が責任を持って匿名化し、個人情報保護に十分配慮して管理を行いません。診療情報は当院でのみ利用します。

5. 有害事象および患者負担

患者さんへの直接的な介入や侵襲はありませんので有害事象は起こりません。また費用負担もありません。

研究へのデータ提供による利益・不利益は特にありません。また、研究への参加・不参加による利益・不利益はありません。

6. 利益相反

開示すべき利益相反はありません。

今回集めた資料は研究発表に使用します。もし患者さん自身、あるいはご家族の情報を本研究に登録されたくない場合は、随時下記連絡先までご連絡ください。取りやめを希望した時点で、すでに研究成果が公表されていた場合は破棄出来ない場合もあります。

この研究計画にご質問がある場合は、下記までご連絡ください。

7. 研究機関情報

研究機関名：京都市立病院

院長：黒田啓史

研究責任者：リハビリテーション科部長 多田 弘史

研究担当者：リハビリテーション科 松原 彩香

電話 075-311-5311

8. 問い合わせ先

本研究に関する質問・問い合わせ先

リハビリテーション科 松原 彩香 (代表 075-311-5311)